

# 潮来市の誇れる文化

第141回

## 潮来を愛した竹内栖鳳

たけうちせいほう

栖鳳は水郷の風景を愛したことも知られています。昭和二年から四年にかけて何度か潮来を訪問しています。『画趣豊かな地方を見歩くことは最上の幸福である』の言葉は、まさに水郷潮来を旅したときの感想を述べたものでしょう。栖鳳はこうも言っています。『近年私の風景画の材料に感興を覚えた地方は水郷潮来出島である。画家としての私が、あの水郷を舟に乗り、微に入り細に入っ

て見歩いていると、至るところ画趣に富んでいて飽きることを知らない』と。

常に画家としての感性を働かせている栖鳳にとつて、利根川の下流域に位置し、かつて水運の中継港として栄えた潮来は、三方を湖や川に囲まれ、町中を水路が行き交う風情豊かな「水郷」であり、絵心をかきたる出会いであったと思われま

す。栖鳳は、動物を描けばその匂いまで描くといわれた達人でした。更に晩年には、筆の画数を減らした「省筆」と呼ばれる画境を拓きました。少ない本数の線で、対象の特徴的確に把握し描き出したのです。

上図の「潮来小暑」は昭和四年の作品で小暑の頃の閑静な風景が描かれています。

他に潮来を題材とした作品として「潮来初夏」「潮来風光」「水郷」などがあります。

常陸利根川湖畔には「竹内栖鳳先生来游碑」が水郷を臨むかのように建っています。

(参考)

「潮来小暑」 山種美術館蔵

潮来市文化財保護審議会

委員 石津 藤好



「潮来小暑」



竹内栖鳳先生来游碑

## 地域おこし協力隊通信

第53回



リポーター…  
高橋将行 隊員

こんにちは、高橋です。だんだんと秋の色が深まる今日この頃ですね。秋を感じる一方で、夏の記憶を家計簿に刻む僕。あー、遊びすぎた、…今秋は節約の秋になりそうです。

このピンチを乗り切るためには、3食自炊・徒歩生活・3割引の商品を買い漁る…これしかない！野草採集・狩猟の知識があれば、もう少し食費を抑えられるのに…。支出の抑制は家計管理の中では非常に大事なことです。また私自身、協力隊任期終了後のサブイバル生活を考えると、自分はいくらの収入があれば暮らしていけるのかという点も実証しなければなりません。

そういった苦境財政の中で、大注目な事といえば、2024年1月から制度改正となるニ一サ制度。現行制度よりも年間投資可能額・保有限度額が増額、加えて非課税保有期間が無期限化します。…これは嬉しい。「投資」という言葉を聞くと、3・4桁万円単位の金額を投

じるものと考えている人もいますが、投資信託という商品であれば、100円から1万円程度で始められる場合もあります。

仮に投資商品を購入した際は、損益の度合いに限らず「購入・保有してみて、どんな心境だったか」と、自分会議することをお勧めします。『もう少し勉強してみようかな』と肯定的に捉える人もいれば、『価格変動が気になって、仕事の手が付かなくなった！』と、生活に支障をきたす人もいます。後者の場合は、投資は止めて、元金保証の定期預金などで家計活動を練っていきましょう。

自身の運用方法、そしてライフステージや支出を先読みし、今は貯金10割とか、貯金7割・投資3割かな…と家計活動のリバランス、ライフプランを練り直すことが大事です。物価上昇で厳しいこの時代、1円でも無駄には出来ませんが、1円を笑うものは1円に泣きます。

近年は投資セミナーを装ったマルチ商法や詐欺が蔓延していますので、多額の入金金を支払う投資団体には近づかないよう、お気を付けてください。

まだ少し早い話ですが、年明けの2024年、新ニ一サ開設を予定に入れてみてはいかがでしょう。最も小リスクでスタートしてみましよう、私も年明けまでは財布の口は固く縛っておきます。(高橋)



↑今年の夏のビックイベントといえば、津軽河岸あと広場『石の蔵』で箏のミニコンサートを行ったこと!